

今号の内容

1. 巻頭言
2. 石澤賢一先生 山形大学医学系研究科 血液・細胞治療内科学講座 教授就任祝賀会
3. どんと祭
4. 東北大学病院が造血幹細胞移植推進拠点病院に選定
5. 中村恭平先生 日本学術振興会育志賞受賞

1. 巻頭言

2015年が明けたと思っていたら、もう3月です。花粉症の先生方にはつらいシーズンに突入です。私も目をこすりながら、ぼーとした頭で日々仕事をこなしています。

さて、本号のトピックスはなんといっても、石澤先生の山形大学医学系研究科血液・細胞治療内科学講座教授就任祝賀会です。血液免疫科OBの先生を中心に100名を超える先生方にご出席いただき、盛大に開催することができました。これも石澤教授の人柄と先生方の期待の表れと思います。今後、東北大学血液免疫科と山形大学が両輪となって東北の血液学の発展に尽くしていければと考えています。もう一つの快挙は中村恭平先生の日本学術振興会育志賞受賞です。この賞は天皇陛下が御下賜された若手研究者対象の賞であり、中村先生は東北大学医学系研究科を含む星陵地区で初の受賞者です。これからも、この受賞を励みに頑張ってもらいたいと思います。

4月1日の新年度から、渡部龍先生が米国に、中村恭平先生がオーストラリアに留学します。また、斎藤陽先生が宮城県立がんセンターに、猪倉恭子先生が石澤先生の山形大学血液・細胞治療学に赴任されます。それぞれの先生方が一回り大きくなって戻ってくることを心から楽しみにしています。(張替秀郎)

2. 石澤賢一先生 山形大学医学系研究科 血液・細胞治療内科学 講座 教授就任祝賀会

東北大学医学部臨床試験推進センター特任教授であった石澤賢一先生が、平成26年12月に山形大学医学部血液・細胞治療内科教授に就任されました。

これをお祝いしまして、1月24日に勝山館にて石澤賢一先生教授就任祝賀会を開催し、当教室員、第二内科同窓会の先生方、治験センターCRCの皆様、総勢114名もの方々に参加して頂きました。御来賓の先生によると、昔から「石澤いるところに人が集まる」とのことです。

新しい教室もますます発展していくことと思います。

石澤先生が研修時代より抱いていた「血液の臨床研究」の志をさらに飛躍させ、今後も共に東北地方のみならず日本の血液の臨床を変えていただければと思います。

(藤井博司)



石澤 賢一 教授就任祝賀会



石澤賢一教授就任祝賀会

平成27年1月24日(土) 於:仙台勝山館

3. どんと祭

1月14日に毎年恒例の「どんと祭」の裸参りおこなわれました。「どんと祭」とは小正月に神社の境内で正月飾りを焼き、御神火にあたることで1年の無病息災、家内安全を祈願するお祭りです。今年も当科から張替教授を先頭に総勢15名で裸参りに参加しました。

今年は好天に恵まれ、例年に比べると遥かに気温は暖かく、神社についてから御社殿参拝までの待ち時間もほとんどなく、幾分楽な参拝でありました。患者様の1日も早い回復と血液免疫科医局員、東14階病棟のスタッフの無病息災をお祈りし、一人の脱落者もなく無事参拝を終えることができました。

裸参りに参加いただいた医局員の方々、病棟ナースの皆様に厚く御礼申し上げます。今年も良い1年になりますように。(鴨川 由起子)



4. 東北大学病院が造血幹細胞移植推進拠点病院に選定

大西 康

平成26年12月、東北大学病院が厚生労働省の造血幹細胞移植医療体制整備事業を担う「造血幹細胞移植推進拠点病院」に選定されました。昨年は名古屋第一赤十字病院、都立駒込病院、大阪市立大学医学部附属病院が拠点病院として選定され、今年度は当院と東海大学医学部付属病院が選定されました。この事業に関連して2015年2月21日に6号館で「第一回造血幹細胞移植拠点病院セミナー」を開催し、107名の方にご参加いただきました。名古屋の宮村先生のご講演をはじめ、当院東14階病棟看護師の門馬香菜江さんに移植後長期フォローアップ、当院移植コーディネーターの上野秋花さんにHCTCの役割について発表いただきました。

また、「東北の造血幹細胞移植を進めるために」と題したパネルディスカッションでは秋田大学、山形大学、岩手医大、福島県立医大の移植担当の先生方と有意義な意見交換を行うことができました。どの県でも移植を担う人材の不足が一番の問題となっているようでした。

今後、東北地方でも最新の移植医療を提供できるよう、六県で更なる連携を図っていきたいと考えております。平成27年度も移植関連のセミナーを企画する予定ですので、先生方も是非ご参加ください。また、この事業は新たに移植コーディネーターを目指す方の雇用にも対応しております。お近くに適任の方がおりましたら、医局までご一報ください。



5. 第5回 日本学術振興会育志賞の受賞報告

中村恭平

このたび、第5回日本学術振興会育志賞を受賞いたしましたのでここに謹んでご報告申し上げます。本賞は天皇陛下の御即位20年にあたる平成20年度より、大学院博士課程の若手研究者奨励事業として始まったものです。昨年の6月に今回の第5回育志賞の公募案内があり、張替教授より同賞への応募を薦められました。選考過程は学内および本部での書類選考、そして昨年12月の学術振興会本部での30分間の面接において、「今までどのような動機でどんな研究を行い、自身がこれからどんな新しいことをやっていきたいのか？」常に問われ、厳しいものでしたが、自身の心と頭を整理する大変有意義な経験であったと思います。また、面接選考の予演として、片平の大学本部において教育担当理事の先生方の前で発表させていただき機会をいただき、建設的なご意見をたくさんいただきました。心より感謝申し上げます。

こうした選考過程に参加できただけでも十分な収穫でしたが、大変光栄なことに今年1月に受賞通知をいただき、3月4日、日本学士院にて、天皇皇后両陛下のご出席のもと、受賞式に参加いたしました。受賞式後の記念茶会では私を含めた計18名の受賞者が2分程度天皇、皇后陛下とそれぞれ直接お話しする機会をいただき、私自身も「患者さんが待ち望む治療ができるように頑張ってください」という御言葉を賜りました。また、受賞式では様々な分野の受賞者と交流する機会にも恵まれ、大変刺激になりました。

受賞の喜び以上に賞の重みを感じております。「志を育む」目的の本賞に恥じぬよう、常に高い志をもって仕事をしていきたいと気持ちを新たにしました。今年4月よりブリスピンのQIMR Berghofer Medical Research Instituteに研究員として勤務予定ですが、この経験を糧に研究に励みたいと思います。

最後になりましたが、本賞に推薦していただき、ご指導を賜りました張替教授、生体防御学分野の小笠原教授に深く感謝申し上げます。

